

**2024 年若手の会 サイエンスアゴラ 2024**  
**「海の恵みから SDGs を考えてみよう！」実施報告**

化学部会 若手の会

**1. 概要**

- 開催日時： 2024 年 10 月 26-27 日（土日） 9 時 30 分～17 時 00 分
- 開催場所： テレコムセンター（東京都江東区青海二丁目 5 番 10 号）

**2. 当日参加スタッフ**

- 化学部門・・・石川さん、小川さん、川本さん、佐藤さん、島野さん、武田さん、吉川（報告者）
- 水産部門・・・岡野さん、高柳さん、田角さん、田角娘さん、

**3. 費用**

<収入> 対外活動促進費： ¥ 75,726

-----

合計： ¥ 75,726

<支出> 設備レンタル料： ¥ 22,000

資料、ポスター印刷代： ¥ 10,580

動員費： ¥ 50,156

-----

合計： 82,736 円

<収支> ▲¥7,010

<前回までの繰越金> ¥11,657

<繰越金> ¥4,647

**3. 実施内容（当日までの準備）**

- ・今回は水産部門の皆さまとの合同企画となった。
- ・開催日が例年よりも早く、告知から採択締め切りまで 1 カ月と短い時間ということもあり、毎年採択するための申請書は多くの皆様のご協力のもとに提案することができた。
- ・企画タイトルは「海の恵みから SDGs を考えてみよう！」。アルギン酸ナトリウムという両者のキーワードを用いて自然のめぐみや化学とのかわりを体感することで対話することで進めることにした。

- ・水産部門は、A0ポスター、海藻類展示、動画、化学部門はアルギン酸ナトリウムを使ってカラフルなビーズを作るという体験で進めることにした。
- ・合同打ち合わせは2回行った。参加の意義やそれぞれ出展する内容を報告しながら両者で共有することを行った。
- ・化学部門のカラフルなビーズ体験は8月に実施した理科教室をベースに準備を進めた。

#### 4. 当日の様子（写真含む）



図1 当日の全体レイアウト（土曜日午前時点）



図2 水産部門のポスター



図3 乳酸カルシウム水溶液にアルギン酸ナトリウム水溶液を落とす



図4 カラフルなビーズ



図5 土曜日の様子（前：カラフルなビーズ、後：海藻の説明）



図6 当日の様子（両部門でのそれぞれ説明）

- ・10 時半～11 時位から家族連れを中心にブースに訪れた。ビーズのサンプルを作って歩いている人に見せると興味をもってブースに訪れてくれた（特にお子さんは興味をもってくれた）。
- ・8 月に実施した理科教室とは異なり、ブースに訪れる人のタイミングや時間などは不規則になるため、やりながら最適解を見出すことができた。
- ・今回は昨年の反省点からポスターを作成、これを見て参加してくれる人（どちらかというと大人）がいたので反省点を活かした活動になってよかった。また、ポスターをもって宣伝活動もできたことで集客にはつながったと思う。
- ・普段食べている海藻の話から海、自然、SDGs について考えるきっかけを対話や体験をもって感じることができるブースになったのではないかと考えている。
- ・ビーズをつくる、海藻に触れるというシンプルながら楽しく理解することができるブースになったと感じている。
- ・非公式であるが、AI ブースラリー情報によれば土日で 12,000 人近くの入場者があつたらしく、注目度もあるイベントであった。
- ・土曜日に榎 太一氏（サイエンスアゴラ推進委員会）が訪れたこともあり、ブースの説明と技術士会コラボの概要を説明した。
- ・土曜日にブースには環境部門赤澤様、審議員西村様が来訪して、今後の活動などについてのアドバイスを受けた。

## 5. 参加者からの感想、来年への課題等

- ・テーマおよび取り組んだ内容は非常に良かったし、家族連れ中心に楽しんでもらえたと思う。一方で技術士会そのものを P R する場面としては多少対象ではない部分も感じている。パンフレットを渡して P R しているが、その説明は十分な時間を取ることができなかった。
- ・ビーズを作る体験は持ち帰る人も多く、お子さんにはシンプルかつ遊び心があるものだと感じた。来年以降の理科教室でのイベントしてもできるアイデアの一つになりそう。
- ・アルギン酸ナトリウムについての詳しい説明は体験側でもわかりやすく説明できる準備をさらにしておけば体験の理解度も深まる点があった。
- ・ここ数年ブースでは体験と対話の 2 つの形式をもって行っているが、毎年体験側の人数が多くなっているため、当日は状況に応じて順番を入れ替えたり、一部準備中にする等の対応が必要。来年も同じ形式で進めるのであれば、当日の運営は課題のひとつである。
- ・年々サイエンスアゴラの採択基準が難しくなっている印象を受けている。同じ企画ではなく、更新しながら常に対話を出来る内容にしなければいけないと感じている。準備期間も短いため、来年は準備を速めて活動できるようにしたい。
- ・当日にサイエンスアゴラの協力関係者と話す機会があったが、昨年の入場者数（約 9,000 人、2 日）を上回る来場を予想していた。年々来場者数が増えていることから来年も出展する側としてはサイエンスアゴラのテーマに融合した対話ができる企画を作っていく必要があると考える。

## 6. 参考）これまでの若手の会によるサイエンスアゴラへの参加

|      | 参加テーマ名                          | サイエンスアゴラテーマ    |
|------|---------------------------------|----------------|
| 20 年 | 技術士と学ぼう～身近なもので楽しい実験             | Life           |
| 22 年 | 電気自動車 つくって学ぶ「カーボンニュートラル」        | まぜて、こえて、つくりだそう |
| 23 年 | 今こそ考えよう！みんなで出来る SDGs アクション      | 5 つの “気になる”    |
| 24 年 | 海の恵みから SDGs を考えよう！化学と水産はつながっている | サイエンスと共に未来へ    |



図 7 最後のスタッフ集合写真

以上